

精神科医の思うこと⑮

「もんもん」

松村 奈奈子

児童自立支援施設の嘱託医をしていると、子ども達の指に、指輪のような入れ墨を見つけてしまう事があります。ネットでは「年少リング」とか言われていて、まあいろんな意味があるようですが、子ども達は「なんとなく入れちゃったー」と苦笑い。「高校受験の面接の時は、絆創膏はとこな」「そやなー」なんて会話を毎回診察でしています。

精神科で診療をしていると、いろんな入れ墨に出会います。そんなこんなの思いがあるので、今回のテーマは入れ墨（もんもん）

実は私、10代の頃、当時好きだったドイツ映画の主人公が小さな赤いバラの入れ墨を胸元に入れているのを見て「カッコイイ、いつか私もしてみたい」なんて思った事があります。母親に話すと「アホな事言うて」と怒られました。今でもちょっと憧れはあるのですが、日本の温泉は「入れ墨の方入浴禁止」になっている所も多く、温泉好きなので入れ墨を入れなくて良かったなど、今は思います。ただ、10代の頃に憧れた入

れ墨は、社会や家族に対する反抗の意味が強かったのかもしれませんが。

医師になってすぐ、いつか一人で外来診察をしなくてはならない日が来た時、入れ墨を入れている患者さんと上手く関係を築くのに、入れ墨にどう反応したらいいんだろ？と悩み始めました。それは「小さな赤いバラ」な一んていうオシャレ入れ墨ではなく、任侠映画でよく見る腕から背中にバーンとあらわれる入れ墨です。

研修医をしている頃、なんでも相談できる敏腕 MSW（医療ソーシャルワーカー）の年配の男性がいました。クレーム家族も任侠からみの患者さんも、上手に関わってサポートする姿をずっと尊敬していました。新米の研修医が相談に行っても、丁寧に教えてくれます。それは医師の上司からは学べない、患者さんを支えるスゴイ技術をもった存在でした。ある時、どーしてもじっくりお話してみたいとお願いして、飲み連れて行ってもらいました。

敏腕 MSW との飲み会は、それはそれは勉強になりました。クレーム家族の対応のコツなど、いろいろ教えて貰い、最後に一番聞きたかった質問「入れ墨の入った方の対応って難しくないですか？」と聞きました。するとビール片手ににやっと笑いながら敏腕 MSW は答えます「先生、もんもんは褒めるんが大事なんや」と。

この言葉は、私の中にガーンと響きました。そして「なんでももんもんを入れると思う？なんで見せると思う？もんもんは自慢なんやで」「彼らはちゃんと見て欲しいんや」と敏腕 MSW は続けて話しました。私は「なるほどー」の言葉しか出ませんでした。

その後、一人で外来診療をするようになって「もんもんは、ちゃんと褒めるんや」の言葉を実践しています。

「眠れない」とやって来た、袖口から入れ墨の見える高齢男性。「おっ、きれいなもんもんですねー」と会話を始めると「そうやろ、昔入れたんや」「見せたるか？」と急に表情が和らぎます。

交通事故にあい大怪我をした後からうつ状態になったという若い男性。袖口から入れ墨が見えます。「おっ、きれいやねえ」の言葉だけで彼の表情から緊張が解けます。その後、「やんちゃな人生やったんかな？」と聞いてみると、それなりに社会に反発しなければならぬ、辛い家族背景のある人生を彼は語りました。

当たり前の事ですが、入れ墨が人にどう思われるかは入れた本人が良く理解している事です。怖がられたり、拒絶的な反応をされた事もあると思います。入れ墨をどう思われるんだろうか？入れ墨のせいできちんと診察してもらえないんじゃないか？そんな不安もちょっぴり伝わります。

「もんもんをちゃんと褒める」という言葉は、「もんもんの入った人生を受けとめる」という意味なんだなと思います。

ただ、女性の入れ墨はなんだか違う気がします。

少し前、田舎の一軒宿の温泉に行った時、大浴場の隅でずっとタオルを背中に掛けて小さな子供といる若い女性がいました。「なんでタオル？」と見ていると背中にきれい

な入れ墨が透けて見えました。田舎の温泉は入れ墨禁止の張り紙もなく、もちろん入浴OKです。しかし、脱衣所でも彼女は隅で静かに子どもと着替えていました。仲の良い母子で凜とした立ち振る舞いは十分かっこよかったです、入れ墨のある生活の難しさが伝わりました。

一方、ある日の全身入れ墨の女性患者さん、頭痛・不安感など不定愁訴で受診しました。あえて入れ墨を隠そうしない服装で、短い袖や襟元から入れ墨が目に入ります。診察での会話の言葉使いなどから知的に高いのが伝わります。思わず「話していると賢いのがわかる。高校を卒業しなかったのは家族への反発で？」と聞いてしまいました。「はい、母親が嫌いで高校中退して家を出ました」続けて「入れ墨も母親への反発？」と聞くと、「それが大きいと思います」と。その後彼女から語られたのは、入れ墨を背負って一生懸命生きてきた経過でした。10代の時に産んだ息子さんは有名大学に進学していました。「私が出来なかったので、子どもにはキチンと勉強させたくて」と話します。

「入れ墨をしていると、仕事がなかなかみつからへんのちゃうかな」と聞くと、ここ数年は愛人関係にある男性に生活を支えてもらっているといいます。「もう母親に反発する人生ではなく、自分を大切にできる人生にしてみてもどうか」と思わず諭してしまいました。入れ墨を隠せばそれなりに仕事は見つかります。「本当の自分の能力に自信を持って、生きてみるかどうか」という話をすると、彼女は納得して帰りました。彼女の求めていたものに答えることが出来たせいなのか、和らいだ表情でした。特にお薬はありません。彼女が少し変化出来ているといいなあと思います。

女性のもんもん、それは何か憂いがある事が多い様に思います。

現在の非行少年の数が、ピークだったバブル時代のたった15%程度に減少していると、最近行った学会で聞きました。非行の中心だった知的や発達に難しい子ども達が特別教育を受けているからだとか、仮説はいろいろあるようです。しかし、まだまだよくわかっていないといえます。児童自立支援施設でも非行少年が減少し、リングの入れ墨をした子ども達を見ることも減りました。一方で、入れ墨の感覚も急激に変化し、若者の半そでTシャツからオシャレ tattoo を見ることも珍しくなくなりました。

入れ墨の外国人観光客も増え、入浴施設を含めいろんなところで議論がされています。

入れ墨を取り巻く状況に、またいろいろと考えてしまう私です。